

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 2 官僚制	ウェーバーは、近代社会の合理化に伴って発達した、規則による支配と専門的な分業を特徴とする組織形態が、人間を機械の歯車のように管理・支配し、個人の主体性や創造性を奪う危険性を指摘した。
問2	答え 2 ルソー	ルソーは著書『社会契約論』において、私利私欲を追求する「特殊意志」やその単なる総和である「全体意志」とは区別される、共同体全体の共通善を志向する「一般意志」を提唱した。市民が一般意志に従うことは、自らが定めた法に従うことであるため、真の自由の獲得を意味する。そのため、一般意志に背く個人に対して共同体が服従を強制することは、その個人を真に自由な存在にすること、すなわち「自由であるように強制される」ことを意味すると論じた。
問3	答え 2 国家	ヘーゲルは、人倫の発展段階を「家族」「市民社会」「国家」の三段階で捉えた。家族は自然な愛情に基づく共同体であるが、個人の独立性がない。市民社会は個人の独立性と欲望が追求される場であるが、利害の対立や貧困が生じる。これら二つの矛盾を弁証法的に統合（止揚）し、個人の自由と共同体の普遍的な利益がともに実現される最高の人倫の共同体が国家である。
問4	答え 3 汎神論	スピノザによって体系化されたこの世界観は、神を世界を超越した存在としてではなく、世界そのもの、あるいは自然そのものとして捉える。ゲーテはこの考え方に深く影響を受け、自然を生命力に満ちた有機体として捉える独自の自然観を構築した。
問5	答え 2 質的功利主義	ジョン・スチュアート・ミルによって提唱された思想である。ベンサムが快楽をすべて数量的に計算できるとしたのに対し、ミルは快楽には精神的な「質」の差があると主張し、より高次の精神的快楽を追求することを重視した。
問6	答え 3 ク・セ・ジュ	モンテーニュは、独断や偏見に陥る人間を批判し、自らの知識や理性を疑う懐疑主義の立場をとった。その姿勢を象徴するのが「私は何を知っているか」を意味する「ク・セ・ジュ」という問いであり、これは自己の無知を自覚しつつ真理を探究し続ける謙虚な態度を示している。
問7	答え 3 道具的理性	ホルクハイマーとアドルノは、共著『啓蒙の弁証法』において、本来は人間を迷信や神話から解放するはずであった理性が、自然を客体化して技術的に支配するための手段（道具）へと変質したと指摘した。この理性が、社会の組織化や管理を通じて人間自身をも抑圧・支配する力となったことを批判的に捉えた概念である。
問8	答え 1 功利主義	法律や制度が適切であるかどうかを、単に既存のルールに従うこと（実定法主義）ではなく、それがもたらす結果としての幸福の量によって吟味する立場である。ベンサムは「最大多数の最大幸福」を掲げ、法や政治の改革を推進する基準としてこの思想を提示した。
問9	答え 2 道具的理性	フランクフルト学派の思想家たちは、近代の啓蒙主義がもたらした理性が、本来の人間解放の目的を見失い、管理社会や全体主義をもたらす支配の道具へと変質したことを批判した。このような、目的のための手段の有効性のみを追求する理性を「道具的理性」と呼ぶ。
問10	答え 2 人倫	ヘーゲルは、カントの説く道徳性を主観的なものとして批判し、客観的な法と主観的な道徳が、家族、市民社会、国家という現実の共同体において統合された「人倫」においてこそ、真の自由が実現されると説いた。

問1 ドイツ観念論の発展において、ある哲学者が提示した理性と自由のあり方は、後続の思想家から「現実の歴史や社会から切り離された抽象的なもの（空虚な義務）にとどまっている」と批判された。この批判を行ったヘーゲルに対し、批判の対象となった、純粹理性批判や実践理性批判を著して批判哲学を確立した哲学者は誰か。（2009年 全国公立入試 類似）

1. フィヒテ 2. ヘーゲル 3. カント 4. シェリング

問2 『監獄の誕生』などの著作で知られ、近代社会における学校、病院、軍隊、監獄などの制度や装置が、人々の身体や精神を規律化し、従順な人間を作り出す権力の仕組みを分析したフランスの思想家は誰か。（2019年 全国公立入試 類似）

1. デリダ 2. ラカン 3. バルト 4. フーコー

問3 17世紀のフランスの哲学者は、感覚による認識は欺く可能性があるとして一切を疑い、これ以上疑うことのできない確実な真理を出発点とした。この確実な前提から、理性的な推論を重ねることで個別の具体的な知識を導き出す思考方法を何というか。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 直観法 2. 弁証法 3. 演繹法 4. 帰納法

問4 自然状態における人間は、自己愛と他者への憐れみの心によって平和に暮らしていた。しかし、社会の形成に伴って世間の評判を気にする虚栄心が生まれ、さらに土地の所有が始まったことで、自由と平等が失われ社会的な不平等が決定づけられたと主張した、18世紀フランスの思想家は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. ロールズ 2. ロック 3. ホッブズ 4. ルソー

問5 自己の都合や枠組みに回収することのできない絶対的な他者との関係性を重視し、その他者の「顔」と向き合うことで、自己はその他者に対して無限の責任を負う存在であると自覚させられるという倫理思想を提唱した、フランスの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. レヴィナス 2. ドゥルーズ 3. フッサール 4. ハイデガー

問6 ヤスパーズの哲学において、死、苦しみ、争い、罪など、人間の力では克服することも回避することもできない、自己の有限性を自覚させる決定的な状況を何と呼ぶか。（2004年 全国公立入試 類似）

1. 限界状況 2. 自己欺瞞 3. 単独者 4. 世界内存在

問7 キリスト教的な同情や平等を重んじる既成の道徳を、弱者が強者に対して抱く怨恨から生じた「奴隷道徳」として批判し、人間本来の生命力や「カへの意志」に基づく生の肯定を説いた、19世紀後半のドイツの哲学者は誰か。（2026年 全国公立入試 類似）

1. ニーチェ 2. ヤスパーズ 3. マルセル 4. サルトル

問8 イギリスの哲学者ベーコンが提唱した、人間の正しい認識を妨げる4つの偏見（イドラ）のうち、個人の資質や性格、受けた教育、置かれた環境などの個人的な要因に起因する偏見を何というか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 種族のイドラ 2. 洞窟のイドラ 3. 劇場のイドラ 4. 市場のイドラ

問9 人間を単なる手段としてのみならず、絶対的な価値を持つものとして、自分と他人のそれを常に同時に目的として尊重すべきであるとする、ドイツの哲学者が提唱した倫理思想を何というか。（2007年 全国公立入試 類似）

1. 感情主義 2. 功利主義 3. 実存主義 4. 人格主義

問10 社会全体の幸福を「最大多数の最大幸福」という標語で表現し、個人の快樂には質の差はなく、強さや持続性などの基準によって客観的に測定・計算できるものとして捉えた、功利主義の創始者とされるイギリスの哲学者は誰か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. ヒューム 2. ロック 3. ホッブズ 4. ベンサム

答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 3 カント	ヘーゲルは、個人の内面における道徳的自律を重視したカントの哲学を、現実の歴史的・社会的文脈を欠いた抽象的なものであると批判した。カントの説く道徳は主観的な「道徳」にとどまり、客観的な社会制度である「人倫」においてこそ自由が具体化されるとヘーゲルは主張した。
問2	答え 4 フーコー	近代社会における「規律・訓練」の権力を分析し、人間を規律化する制度や装置の発達に近代の特徴を見いだした。一方で、その権力に対する抵抗や、服従を拒み社会を変えていく主体的な力にも着目した。
問3	答え 3 演繹法	感覚的な経験を疑い、理性の働きによって確実な真理から論理的に結論を導き出す方法は演繹法と呼ばれる。これに対し、観察や実験などの経験的事実を積み重ねて一般的な法則を導き出す方法は、ベーコンらが重視した帰納法である。
問4	答え 4 ルソー	自然状態の人間は自己愛と他者への憐れみの心によって平和に暮らしていたが、社会の形成に伴い世間の評判を気にする虚栄心が生まれ、さらに土地の所有が始まったことで、自由と平等が失われ社会的な不平等が決定づけられたと主張した。この思想を展開したのはルソーであり、彼は『人間不平等起源論』において文明社会の成立に伴う人間の墮落を批判した。
問5	答え 1 レヴィナス	自己の理性の枠組みに他者を当てはめて理解しようとする全体主義的な思考を批判し、自己にとって異質な、回収不可能な存在としての他者との関係を重視した。他者の「顔」が発する呼びかけに応答し、その他者に対して無限の責任を負うことこそが倫理の根本であると主張した。
問6	答え 1 限界状況	人間が自らの力ではどうすることもできない壁に突き当たったとき、自己の有限性を自覚して絶望するが、それを契機に超越者と出会い、真の実存に目覚めることができるとされる。このような死や苦しみ、争い、罪などの状況を、ヤスパーズは「限界状況」と名付けた。
問7	答え 1 ニーチェ	キリスト教的な道徳を弱者の怨恨（ルサンチマン）に由来する「奴隷道徳」として批判し、神の死を宣告して、自らの価値を自ら創造する「超人」や「カへの意志」による生の肯定を主張した。
問8	答え 2 洞窟のイドラ	ベーコンが提唱した4つのイドラのうち、個人の資質、教育、境遇などの個人的な要因から生じる偏見は「洞窟のイドラ」と呼ばれる。これは、個人が自分だけの狭い「洞窟」の中から世界を見ていることに例えられている。
問9	答え 4 人格主義	人間を単なる手段として扱うのではなく、絶対的な価値を持つ人格として、自分と他人の人格を常に目的として尊重することを求める思想である。これは、自律的な道徳法則に従う主体としての人間（人格）に無限の価値を認める立場に基づいている。
問10	答え 4 ベンサム	個人の快樂の総和が社会全体の幸福につながると考え、快樂を数量的に計算可能とする立場（量的功利主義）を提唱した。この思想は、法制度の改革や民主主義の発展に大きな影響を与えたが、のちに快樂の質的差異を重視するJ. S. ミルによって批判的に乗り越えられることとなった。

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.3

名前

得点

/9

問1 前期には、言語は世界の事実を写し出す絵のようなものであるとする写像理論を唱えたが、後期には、言語の意味は日常生活における多様なルールを伴う言語の使用のなかで決定されるという考え方を提唱し、現代の言語哲学や分析哲学に決定的な影響を与えたオーストリア出身の哲学者は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. ウィトゲンシュタイン 2. ケルケゴール 3. レヴィ=ストロース 4. メルロ=ポンティ

問2 近代的な個人主義が前提とする、社会や歴史から切り離されて自己決定を行う孤立した個人像を批判した思想がある。この思想では、人間は歴史や伝統を共有する社会のなかで他者と関わり、その社会が目指す「共通善」を身に付けることによって初めて道徳的人格を形成できるとされる。このような、歴史や伝統、共通の価値を重視する現代の思想的立場を何というか。

(2025年 全国公立入試 類似)

1. コミュニタリアニズム 2. コスモポリタニズム 3. マルチカルチュラリズム 4. リバタリアニズム

問3 あらかじめ用途が定められている道具とは異なり、人間はまずこの世に存在し、その後自ら自由な選択と行動によって自己のあり方を決定していく。このような人間のあり方を表現した、フランスの哲学者が提唱した思想上の言葉は何か。 (2006年 全国公立入試 類似)

1. 死への存在である 2. 主体性は真理である 3. 人間は自由である 4. 実存は本質に先立つ

問4 自然状態における人間は、自己保存の欲求である自己愛と、他者の苦痛を嫌う憐れみの情をもつ善良な存在であったが、文明の発達や私有財産制の成立、さらには他者からの評価を気にする世間の評判への執着によって、不平等と悪徳に満ちた社会へと陥っていったとする、18世紀のフランスの思想家が著した書物は何か。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 人間不平等起源論 2. 社会契約論 3. 純粋理性批判 4. 市民政府二論

問5 オーストリア出身の哲学者ウィトゲンシュタインは、その思想の後期において、言語の意味は固定された指示対象との対応によって決まるのではなく、日常生活における具体的な規則に従った言語の使用そのものの中にあると考えた。このような、多様な言語の営みをさまざまなルールをもつ遊びになぞらえて表現した概念を何というか。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. 言語ゲーム 2. 感覚データ 3. 言語コード 4. 論理タイプ

問6 近代以降、人間は自然を支配し自己の主体性を確立しようとして理性を発展させてきたが、その結果、自らが生み出した合理的な管理社会のシステムに縛られ、かえって主体性を奪われるという逆説が生じた。フランクフルト学派の思想家たちが批判した、目的を効率的に達成するための手段や道具と化したこのような理性のあり方を何というか。 (2024年 全国公立入試 類似)

1. 社会的性格 2. 批判的理性 3. 批判的理論 4. 道具的理性

問7 18世紀ドイツの哲学者は、従来の「認識が対象に従う」という考え方を逆転させ、人間の主観が持つ認識能力によって対象を構成し、「対象が認識に従う」と考えた。この認識論における劇的な発想の転換を、天文学上の地動説への転換になぞらえて何と呼ぶか。 (2012年 全国公立入試 類似)

1. デカルト的懐疑 2. ヘーゲルの弁証法 3. コペルニクス的転回 4. スピノザの汎神論

問8 知性を、人間が環境に適応し、直面する課題を解決するための道具とみなす立場をとり、環境との相互作用を通じて未来を展望する能力を「創造的知性」と呼んだ。また、実践的な問題解決型教育を重視し、学校を社会生活の実験場と位置づけた、著書『民主主義と教育』で知られるアメリカの哲学者は誰か。 (2017年 全国公立入試 類似)

1. ジェームズ 2. ローティ 3. デューイ 4. パース

問9 精神と物質を独立した二つの実体とする物心二元論を唱え、物質の本性を「延長」と捉えるとともに、物質世界を神が定めた自然法則に従って動く機械のようなものとみなす自然観を確立した、フランスの哲学者は誰か。 (2004年 全国公立入試 類似)

1. スピノザ 2. デカルト 3. ヘーゲル 4. ベーコン

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 1 ウィトゲンシュタイン	前期には論理実証主義に大きな影響を与えた『論理哲学論考』を著し、後期には日常言語の分析へと向かって「言語ゲーム」の概念を提唱した哲学者はウィトゲンシュタインである。
問2	答え 1 コミュニタリアニズム	ロールズのリベラリズムが想定する、自己の目的を自由に選択できる「負荷なき自己（孤立した個人）」を批判し、人間は歴史や伝統、共通の価値観（共通善）を持つ共同体に埋め込まれた存在（位置づけられた自己）であると主張する立場。マッキンタイアやサンデル、テイラーらによって提唱された。日本語では共同体主義とも呼ばれる。
問3	答え 4 実存は本質に先立つ	人間にはあらかじめ定められた本質や目的がなく、まず存在（実存）し、その後により自由な選択と行動によって自らの本質を形成していくという考え方を表している。あらかじめ設計図や用途が決まっている道具（本質が実存に先立つ）との対比で説明される。
問4	答え 1 人間不平等起源論	18世紀フランスの思想家ルソーは、著書『人間不平等起源論』において、人類の歴史を自然状態から文明社会への移行過程として描き出した。自然状態の人間は自己愛と憐れみの情（同情心）によって平和に暮らしていたが、土地の所有（私有財産制）の開始や、他者からどう見られるかという世間の評判への関心が生じたことで、虚栄心や羨望といった悪徳が生まれ、社会的な不平等が固定化されたと論じた。
問5	答え 1 言語ゲーム	ウィトゲンシュタインは、前期の思想（『論理哲学論考』）において、言語は世界の事実を写し取る「写像」であると考えた。しかし、後期の思想（『哲学探究』）ではこの考えを改め、言語の意味は日常生活における具体的なルールに従った「言語の使用」そのものの中にあるとした。彼はこの多様な言語の営みを、ルールに従って行われる遊びになぞらえて「言語ゲーム」と呼んだ。これにより、自然科学の言語だけでなく、日常の多様な言葉のやり取りもそれぞれ独自のルールを持った有意義な営みとして肯定された。
問6	答え 4 道具的理性	近代の合理主義は、人間が自然を支配し、自らの主体性を確立するための力として機能してきた。しかし、ホルクハイマーとアドルノは、この理性が肥大化した結果、人間自身をも効率的に管理・支配するための「道具」へと変質してしまったと指摘した。彼らは共著『啓蒙の弁証法』において、この理性のあり方がファシズムなどの全体主義をもたらした背景にあると批判した。
問7	答え 3 コペルニクスの転回	カントは、認識の対象が先にあるそれを人間が受動的に写し取るのではなく、人間の主観に備わっている認識の枠組み（感性と悟性）によって対象を構成することで初めて認識が成立すると主張した。この主客の逆転を、天動説から地動説への転換になぞらえて「コペルニクスの転回」と呼ぶ。
問8	答え 3 デュエイ	パースやジェームズのプラグマティズムを継承・発展させ、知性を環境に適応し問題を解決するための道具とみなす道具主義を唱えた。環境との相互作用の中で未来を切り拓く知性を「創造的知性」と呼び、従来の暗記型教育を批判して、実践的な問題解決学習を重視する教育改革を提唱した。その思想は『民主主義と教育』などの著書にまとめられている。
問9	答え 2 デカルト	精神の本性を「思惟」、物質の本性を「延長」とし、両者を独立した実体とする物心二元論を唱えたのはデカルトである。彼は、物質世界を目的を持たない機械的なものと捉える機械論的自然観を提示し、近代科学の誕生に大きく貢献した。

問1 ドイツの思想家ベンヤミンは、写真や映画などの複製技術の発展に伴う芸術の変容を論じた。彼が、複製技術の普及によって失われると指摘した、芸術作品が「いま・ここ」に存在することに由来する、唯一無二の神秘的な輝きや一回性のことを何と呼ぶか。 (2025年 全国公立入試 類似)

1. モード 2. コピー 3. アウラ 4. コード

問2 19世紀後半のドイツの思想家は、キリスト教的な価値観が崩壊したニヒリズムの時代において、目的も意味もなく同じことが無限に繰り返される「永劫回帰」という過酷な現実を提示した。この思想家が、このような虚無的な現実を「運命愛」によって肯定的に受け入れ、自らの「カへの意志」に従って新たな価値を創造していく存在として提示した、理想的な人間像を何と呼ぶか。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. 人格 2. 超人 3. 賢者 4. 紳士

問3 人間の魂における情念を理性の指導によってコントロールする「中庸」の徳を重視し、人間は本性的にポリス的（社会的）動物であるとして、他者との共同体において友愛や正義を実践し、共に善く生きることを説いた哲学者は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. アリストテレス 2. プロタゴラス 3. プラトン 4. ソクラテス

問4 リバタリアニズム（自由至上主義）を代表する思想家は、個人の自由や所有権を最優先に考える立場から、国家による強制的な課税を通じた富の再分配を不当な侵害として批判した。彼が主張した、国家の機能を防衛や治安維持、契約の履行などに限定し、それ以上の介入を行うべきではないとする国家のあり方を何というか。 (2020年 全国公立入試 類似)

1. 夜警国家 2. 法治国家 3. 福祉国家 4. 最小国家

問5 19世紀末から20世紀初頭にかけて、科学的・合理主義的な世界観に対して、生命の躍動や内面的な体験を重視する「生の哲学」が展開された。この潮流において、時間を空間的な目盛りとしてではなく、過去が現在に絶えず流れ込み蓄積していく「純粹持続」として捉え、人間の意識や人格は絶えず新しさを生み出しながら自己を創造し続けるプロセスであると主張したフランスの哲学者は誰か。 (2016年 全国公立入試 類似)

1. ハイデガー 2. ヤスパース 3. デルタイ 4. ベルクソン

問6 ルネサンス期には人間中心の文化が花開き、美術の分野でも人間性や肉体の美しさを写實的に表現する芸術家が活躍した。システナ礼拝堂の天井画『天地創造』や壁画『最後の審判』、彫刻『ダヴィデ像』などを制作し、ルネサンスの最盛期を代表する芸術家は誰か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. ブルネレスキ 2. ティツィアーノ 3. ボッティチェリ 4. ミケランジェロ

問7 知性を、人間が環境に適応し、直面する具体的な問題を解決して社会を改善していくための「道具」と捉え、民主的な社会の形成に向けた教育の重要性を説いたアメリカの思想家は誰か。 (2013年 全国公立入試 類似)

1. パース 2. ジェームズ 3. ローティ 4. デューイ

問8 19世紀イギリスの思想家であり、著書『自由論』において、個人の行動の自由は他者に実害を及ぼさない限り制限されるべきではないという原則を提唱し、多数者の専制や国家による不当な干渉を批判した人物は誰か。 (2019年 全国公立入試 類似)

1. J.S.ミル 2. K.マルクス 3. J.ベンサム 4. J.J.ルソー

問9 歴史の進歩や普遍的な社会正義を掲げて未来の理想社会を設計しようとする立場に対し、そうした全体的なシステムを批判し、目の前で苦しんでいる具体的な他者からの呼びかけに直接応答することに倫理の根源を見出す思想がある。このような、自己の枠組みを超えて迫ってくる「他者の顔」に対する無限の責任を説き、近代の主體的自己中心性を批判した現代の哲学者は誰か。 (2015年 全国公立入試 類似)

1. フッサール 2. ハイデガー 3. レヴィナス 4. ドゥルーズ

答え合わせ・解説 No.4

問1	答え 3 アウラ	複製技術の登場によって、オリジナルな芸術作品が持っていた「いま・ここ」にしかない一回性や本物性としての神秘的な輝きが失われると論じられた。この失われる輝きや一回性のことを「アウラ」と呼ぶ。アウラの消滅は、芸術作品の受容のあり方を儀礼的なものから展示的なものへと変化させ、大衆化を促したとされる。
問2	答え 2 超人	ニーチェは、キリスト教的道徳の崩壊によるニヒリズムを克服するため、既存の価値観に依存せず自ら価値を創造する主体を「超人」と呼んだ。超人は、世界が目的なく無限に繰り返される「永劫回帰」という過酷な現実を「運命愛」によって肯定し、自らの生を高めようとする「力への意志」に基づいて行動する。
問3	答え 1 アリストテレス	アリストテレスは、情念を理性によって適切に制御する「中庸」を倫理的徳（習性的徳）とした。また、人間を「ポリスの動物」と定義し、他者との交わりの中で「友愛（フィリア）」や「正義」を実践することが、最高善である幸福（エウダイモニア）に至るために不可欠であると説いた。
問4	答え 4 最小国家	ノージックは、ロールズの正義論などが肯定する福祉国家的な富の再分配を、個人の労働の成果を強制的に奪うものとして批判した。彼は、個人の自己所有権を徹底的に擁護し、国家の役割を暴力や盗難からの保護、契約の履行といった治安維持や防衛の機能だけに限定すべきだと主張した。これは「大きな政府」としての福祉国家に対比される概念である。
問5	答え 4 ベルクソン	科学技術の発展に伴う機械論的な人間観に対し、生命の根源的な躍動や主観的な時間のあり方を重視する「生の哲学」が興った。この思想家は、時計で測られるような空間化された時間とは異なる、意識の内面における「純粹持続」を提唱し、人間が過去の記憶を現在に融合させながら絶えず新しい自己を創造していくプロセスを重視した。
問6	答え 4 ミケランジェロ	彼は彫刻、絵画、建築など多分野で不朽の名作を残したルネサンス期の巨匠である。肉体の力強さや精神の葛藤を表現し、神中心の制約から解放された人間性の美を追求した。
問7	答え 4 デューイ	人間の知性を環境に適応し、直面する具体的な問題を解決するための有効な「道具」とみなす道具主義を提唱した。彼は、学校を一つの共同体と捉え、学習者が能動的に問題解決に取り組む「なすこと」によって学ぶ（ラーニング・バイ・ドゥーイング）」という教育論を展開し、民主主義社会の発展に貢献しようとした。
問8	答え 1 J.S.ミル	『自由論』を著したJ.S.ミル（ジョン・スチュアート・ミル）は、他者に危害を加えない限りにおいて個人の自由は最大限に尊重されるべきであるという「他者危害の原則」を唱えた。彼は、質的功利主義の立場から精神的快楽を重視するとともに、民主主義社会における「多数者の専制」が個人の個性を抑圧することに警鐘を鳴らした。
問9	答え 3 レヴィナス	全体性（普遍的なシステムや歴史の進歩）が他者を排除・抑圧することを批判し、自己の理解を超えた絶対的な他者（「顔」）からの呼びかけに対して、受動的に応答する責任こそが倫理の出発点であると主張した。この思想は、普遍的な正義の設計図を疑い、今ここにある具体的な他者の苦しみに向き合う実践を重視する立場と深く結びついている。

高校公民プリント（過去問類似）

西洋の近現代思想 No.5

名前

得点

/10

問1 ドイツの哲学者ヘーゲルは、現実世界を固定的なもののみならず、矛盾や対立を契機として、それらがより高い次元へと統合（アウフヘーベン）されながら発展していくプロセスとして捉えた。このような、対立を通じて事物が生成変化していく思考のプロセスや論理を何と呼ぶか。（2006年 全国公立入試 類似）

1. 演繹法 2. 帰納法 3. 弁証法 4. 問答法

問2 カルヴィニズムにおける禁欲的な職業倫理が、結果として営利活動を合理化・正当化し、近代ヨーロッパにおける資本主義の精神を誕生させる原動力となったことを、著書『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』で論じたドイツの社会学者は誰か。（2024年 全国公立入試 類似）

1. マックス・ウェーバー 2. ヴェルナー・ゾンバルト 3. ゲオルク・ジンメル 4. カール・マルクス

問3 18世紀後半のイギリスの経済学者であり、国家による経済への介入を批判し、自由放任主義（レッセ・フェール）を唱えた人物は誰か。彼は、個人が自己の利益を追求して自由な経済活動を行うことが、市場の価格調整メカニズムを介して、結果的に社会全体の富や利益を増大させると主張した。（2017年 全国公立入試 類似）

1. トマス・マルサス 2. アダム・スミス 3. ジョン・ケインズ 4. カール・マルクス

問4 実験と観察を重視し、自然現象を数式による因果法則として解明しようとしたイタリアの科学者が、地動説を擁護したことで宗教裁判にかけられる契機となった、1632年に刊行された主著は何か。（2025年 全国公立入試 類似）

1. 方法序説 2. 天文対話 3. 哲学書簡 4. 統治二論

問5 国家の権力は人民の自然権を保障するために一時的に委ねられたものであり、統治者がこの信頼に反して人民の権利を侵害した場合には、人民は実力をもってこれに立ち向かい、新たな統治者を組織する権利を有すると主張した、17世紀後半のイギリスの思想家は誰か。（2023年 全国公立入試 類似）

1. ロック 2. ホブズ 3. スピノザ 4. ルソー

問6 道徳の根拠を人間の理性の自律に求め、他者を自己の利益のための手段としてのみ扱うのではなく、それ自体が価値を持つ目的として互いに尊重し合うべきであると主張した、近代ドイツの哲学者は誰か。（2019年 全国公立入試 類似）

1. カント 2. ルソー 3. ロック 4. アラン

問7 『社会契約論』を著した思想家が提唱した概念で、個人の私利私欲や特殊な利益の総和（特殊意志や全体意志）とは異なり、共同体全体の共通の利益を志向する不謬の意志を何と呼ぶか。（2019年 全国公立入試 類似）

1. 全体意志 2. 共同意志 3. 特殊意志 4. 一般意志

問8 ドイツの社会学者マックス・ウェーバーが提唱した支配の類型のうち、歴史上の預言者や英雄、あるいは強力な政治指導者のように、非日常的な資質や天賦の魅力に対する帰依や信頼に基づいて成り立つ支配の形態を何というか。（2020年 全国公立入試 類似）

1. 伝統的支配 2. 官僚制的支配 3. 合法的支配 4. カリスマ的支配

問9 コントが提唱した、神学的段階や形而上学的段階を脱し、観察や実験によって得られた事実とその相互関係のみを知識の基礎とみなす、社会の進歩に対応した哲学的な立場を何というか。（2015年 全国公立入試 類似）

1. 実存主義 2. 功利主義 3. 実証主義 4. 合理主義

問10 19世紀後半のドイツの思想家は、キリスト教的な価値観が崩壊したニヒリズムの時代において、目的も意味もなく同じことが無限に繰り返される「永劫回帰」という過酷な現実を提示した。この思想家が、このような虚無的な現実を「運命愛」によって肯定的に受け入れ、自らの「カへの意志」に従って新たな価値を創造していく存在として提示した、理想的な人間像を何と呼ぶか。（2016年 全国公立入試 類似）

1. 人格 2. 超人 3. 賢者 4. 紳士

答え合わせ・解説 No.5

問1	答え 3 弁証法	ヘーゲルは、万物が固定されたものではなく、矛盾や対立を契機としてより高い次元へと統合（アウフヘーベン／止揚）されながら生成変化していくと考えた。この動的な発展のプロセスを説明する論理が弁証法である。
問2	答え 1 マックス・ウェーバー	宗教改革によって生まれたプロテスタンティズム（特にカルヴィニズム）の世俗的禁欲の倫理が、近代資本主義の形成に決定的な影響を与えたことを社会学的に分析した。カトリックの伝統的な経済観とは異なり、労働を神聖視する態度が資本の蓄積と合理的な経営を促したと指摘した。
問3	答え 2 アダム・スミス	自由放任主義（レッセ・フェール）を提唱し、市場における「見えざる手」の働きを重視したイギリスの経済学者はアダム・スミスである。彼は著書『国富論（諸国民の富）』において、各人が自己の利益を最大化しようと行動することが、結果として社会全体の利益につながると説き、重商主義的な国家の介入を批判した。
問4	答え 2 天文対話	コペルニクスの地動説（太陽中心説）とプトレマイオスの天動説（地球中心説）について、登場人物たちの対話形式で論じた著作である。著者は実験と観察に基づく定量的アプローチを重視し、近代自然科学の基礎を築いたが、本書の出版によりカトリック教会から異端審問にかけられ、地動説の撤回を求められた。
問5	答え 1 ロック	人民が自然権を守るために政府に権力を信託し、政府がそれを濫用した場合には抵抗権や革命権を行使できるという社会契約説を唱えたのは、イギリスの思想家ロックである。彼の思想は『市民政府二論（統治二論）』にまとめられ、のちの市民革命に大きな影響を与えた。
問6	答え 1 カント	理性の自律に基づく道徳法則に従う主体を「人格」と捉え、他者を単なる手段として利用するのではなく、常にそれ自体を目的として尊重すべきであると説いた。この人格の尊厳を重視する倫理思想は、近代の人権思想や倫理学の発展に決定的な影響を与えた。
問7	答え 4 一般意志	ルソーは、社会契約によって形成される共同体において、単なる個人の私利私欲の足し合わせである「全体意志」とは区別される、社会全体の共通の利益を志向する「一般意志」を重視した。この意志に基づく政治を行うことで、自由と平等の両立が図られると考えた。
問8	答え 4 カリスマ的支配	マックス・ウェーバーは、支配の正当性の根拠を3つに分類した。非日常的な資質や魅力（カリスマ）に対する帰依に基づく支配はカリスマ的支配と呼ばれる。預言者や英雄、革命指導者による支配がこれに該当する。これに対し、古くからの慣習や家系などの正当性に基づくものは伝統的支配と呼ばれる。
問9	答え 3 実証主義	コントは、人間の知性が神学的段階、形而上学的段階を経て、最終的に観察や実験に基づく実証的段階へと至ると主張した。この立場は、形而上学的な独断を排し、科学的な方法によって社会や自然を把握しようとするものであり、近代社会学の誕生に決定的な影響を与えた。
問10	答え 2 超人	ニーチェは、キリスト教的道徳の崩壊によるニヒリズムを克服するため、既存の価値観に依存せず自ら価値を創造する主体を「超人」と呼んだ。超人は、世界が目的なく無限に繰り返される「永劫回帰」という過酷な現実を「運命愛」によって肯定し、自らの生を高めようとする「力への意志」に基づいて行動する。